

寄稿に関するガイドライン

1. 彙報

地震研究所彙報には、地震研究所で行われた共同利用を含む研究の成果をもとにしたオリジナルな学術論文（論説）、および研究成果を総覧し総合的にまとめたもの（総説）を掲載する。特に、データを主とするもの、長文の研究業績、その他発表するに適切な専門誌のない論文及び報告を推奨する。彙報は原則として年4回刊とし、必要に応じて別冊及び研究速報を発行する。彙報の著作権は地震研究所に帰属する。

2. 寄稿

原稿は、別に定める「原稿作成要領」にしたがって作られたもので、「投稿票」を添付して電子ファイルにより提出するものとする。

3. 本所以外からの寄稿

本所職員以外のもので論文等を寄稿する場合は、本所教官の紹介を必要とする。

4. 査読

学術報告委員（会）は、所内外の適当な研究者に査読を依頼し、査読結果に基づき、内容の改訂、表現の変更、不備な図や写真の修正等を著者に求めることができる。学術報告委員会で検討した結果、大幅に訂正する必要があると認められた原稿は、著者に返却されることがある。

5. 論文等の構成

論文等は、和文または英文とし、表題（著者名、所属機関名を含む）、英文要旨、本文、文献の順で構成する。

6. 要旨

(a) 本文の前に英文要旨をつける。本文が英文の場合、論文の最後に和文要旨をつけることができる。

(b) 要旨は、本文の主要な内容がわかるよう簡潔に書くこと。

この場合、本文中の図、表、式などの引用はさけ、要旨それ自身完結するように書くこと。

(c) キーワード（5つ以内）を、要旨の下に英文でつける。

7. 本文

(a) 論文等は冗長にならないよう注意すること。例えば図と表との重複などはなるべくさけること。

(b) 原稿は充分推敲してから提出すること。原稿は横書きとする。

(c) 図、表、写真の説明文は英文とする。

(d) 図、表、写真をカラー印刷する場合の費用は著者負担とする。

8. 別刷

別刷は、本所の負担において50部を著者に贈呈し、それを超える分の費用は著者負担とする。なお、別刷の印刷も同時に行う都合上、寄稿原稿にあらかじめ所要部数を明記しておくこと。記入のない場合は本所規定の部数を希望するものと認める。

9. 校正

(a) 論文及び報告の校正は、その著者が自らの責任で行う。もし著者が出張などで不在になる場合には、校正の代行者又は送り先を明らかにしておくこと。

(b) 各著者は校正刷の入手後10日以内に校正を終え返却すること。

(c) 校正の段階で、文章用語その他の改変は原則として認めない。

(d) 著者校正は初校のみとする。

(e) 上記事項が守られない場合には、他の寄稿者の迷惑を考えて、掲載を次号に回すことがある。

10. 事務的連絡

寄稿、編集、出版に関する事務的連絡は、すべて下記宛に行うこと。

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所

学術報告委員会

E-mail: scirep@eri.u-tokyo.ac.jp

原稿作成要領

1. ファイル形式

受け付け可能なファイル形式は、Microsoft Word ファイルまたは PDF ファイルである。

2. 原稿の構成

原稿は、表題、要旨、キーワード、本文、文献、図

表の説明、表、図の順に構成し、通しの頁番号をつけること。

3. 表 題

表題、著者名、所属研究機関名などの書き方は、下の見本にならうこと。

『地震研究所彙報』原稿作成要領

地震花子¹⁾・火山太郎²⁾

¹⁾ 東京大学地震研究所・²⁾ 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻

How to Write Manuscripts for Contribution to Bulletin of the Earthquake Research Institute

Hanako Jishin^{1)*}, Tarou Kazan²⁾

¹⁾ Earthquake Research Institute, The University of Tokyo

²⁾ Department of Earth and Planetary Science, The University of Tokyo

4. 要 旨

- 本文の前に英文要旨をつけること。本文が英文の場合、論文の最後に和文要旨をつけることができる。
- 要旨は、本文の主要な内容がわかるよう簡潔に書くこと。本文中の図、表、式などを参照せず、要旨それ自身で完結するように書くこと。

5. キーワード

- キーワード (5つ以内) を、要旨の下に英文でつけること。
- 和文要旨をつける場合は、和文のキーワードもつけること。

6. 本 文

- 和文の場合、句読点には . (ピリオド) および , (コンマ) を使用すること。
- 本文は「1., 2., 3., ...」のように節に区切り、必要に応じて「2.1, 2.2」などのように小節を用いること。

- 本文中における文献の引用は「著者の姓 (発表年)」とすること。共著の文献については、著者が2名の場合は「第一・第二」もしくは「First and Second」、3名以上の場合は「第一・他」もしくは「First *et al.*」のように記す。また、括弧書きで引用する場合は、「(第一・他, 2001; First and Second, 2005, 2008; 第一, 2013)」のように記す。

7. 図、表

- 図、表は、明瞭なものを用意すること。
- 図中の文字、記号などは、刷り上がりが1mm以下にならないようにすること。
- 図及び表には Fig. 1, Table 1 のように通し番号をつけること。
- 図面の縮率または刷り上がりの大きさを指定しておくこと。
- 写真は図に準じて取り扱うこと。
- 表の体裁は原則として次の例にならうこと。

Table 1. Some physical properties of the inner planets of the Solar System

Name	Radius (m)	Mass (kg)	Density (kg/m ³)
Mercury	2.440×10^6	3.301×10^{23}	5.43×10^3
Venus	6.052×10^6	4.869×10^{24}	5.20×10^3
Earth	6.357×10^6	5.972×10^{24}	5.51×10^3
Mars	3.397×10^6	6.419×10^{23}	3.93×10^3

- (g) 図, 表などの挿入場所は, 本文原稿中の右余白に指定すること.
- (h) 色刷 (カラー), 折込図面, その他特殊の印刷または製本様式が必要な場合は, 学術報告委員会に相談すること.
- (i) 図, 表を色刷 (カラー) にする場合, 原稿に記しておくこと.

8. 文 献

- (a) 引用文献は以下の例に従ってまとめること (巻はゴチックとし, 欧文誌名はイタリックとする).

Ioki, K. and Y. Tanioka, 2016, Re-estimated fault model of the 17th century great earthquake off Hokkaido using tsunami deposit data, *Earth Planet. Sci. Lett.*, **433**, 133–138.

Minato, S., T. Tsuji, S. Ohmi and T. Matsuoka, 2012, Monitoring seismic velocity change caused by the 2011 Tohoku-oki earthquake using ambient noise records, *Geophys. Res. Lett.*, **39**, L09309, doi:10.1029/2012GL051405.

Weaver, J.T., 1994, *Mathematical methods for Geo-electromagnetic Induction*, John Wiley & Sons Inc., New York, 316 pp.

Hasegawa, A. and J. Nakajima, 2004, Geophysical constraints on slab subduction and arc magmatism, in “*State of the Planet: Frontiers and Challenges in Geophysics*”, edited by R.S.J. Sparks and C.J. Hawkesworth, Geophysical

Monograph, 150, AGU, Washington, D.C., pp. 81–94.

篠原雅尚・平田 直・松田滋夫, 1997, GPS 時計付き地震観測用大容量デジタルレコーダ, 地震 II, **50**, 119–124.

高橋正樹, 2000, 「島弧・マグマ・テクトニクス」, 東京大学出版会, 322 頁.

佐藤泰夫, 1973, 通信調査, 河角広編「防災科学技術シリーズ 地震災害」, 共立出版, 226–241.

原田智也・室谷智子・佐竹健治・古村孝志, 2014, 1944 年東南海地震のアンケート調査による震度分布, 日本地震学会講演予稿集 2014 年度秋季大会, S10-P08.

- (b) 論文等が英文で書かれている場合は, 和文文献の引用も英文 (訳) とし下の例のように文献名の後に (in Japanese) を付記すること.

Sekiya, H., 1976, The seismicity preceding earthquakes and its significance to earthquake prediction, *Zisin*, **29**, 299–311 (in Japanese).

- (c) 論文等が和文で書かれている場合は, 和文文献は和文, 英文文献は英文でそれぞれ引用すること.

- (d) 文献リストは著者名のアルファベット順とすること. 第一著者が同一の文献が複数ある場合は, 単著の文献 (発表年順), 著者 2 名の文献 (第二著者名のアルファベット順, 第二著者も同一の場合は発表年順), 著者 3 名以上の文献 (発表年順) の順とする.

しばしば引用される雑誌名の略記例を以下に示す.

名 称	英文略記例
地震研究所彙報	<i>Bull. Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo</i>
地震研究所彙報別冊	<i>Bull. Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo, Suppl.</i>
地震研究所彙報速報	<i>Spec. Bull. Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo</i>
地学雑誌	<i>J. Geogr.</i>
地質学雑誌	<i>J. Geol. Soc. Japan</i>
火山	<i>Bull. Volcanol. Soc. Japan</i>
地震	<i>Zisin</i>
American Journal of Science	<i>Amer. J. Sci.</i>
Bulletin of the Seismological Society of America	<i>Bull. Seism. Soc. Amer.</i>
Bulletin of Volcanology	<i>Bull. Volcanol.</i>
Earth, Planets and Space	<i>Earth Planets Space</i>
Earth and Planetary Science Letters	<i>Earth Planet. Sci. Lett.</i>
Eos, Transactions, American Geophysical Union	<i>Eos Trans. Amer. Geophys. Union</i>
Geochemistry, Geophysics, Geosystems	<i>Geochem. Geophys. Geosyst.</i>
Geological Society of America Bulletin	<i>Geol. Soc. Amer. Bull.</i>
Geophysical Journal International	<i>Geophys. J. Int.</i>
Geophysical Journal of the Royal Astronomical Society	<i>Geophys. J. Roy. Astr. Soc.</i>
Geophysical Research Letters	<i>Geophys. Res. Lett.</i>
Journal of Geophysical Research	<i>J. Geophys. Res.</i>
Journal of Petrology	<i>J. Petrol.</i>
Journal of Physics of the Earth	<i>J. Phys. Earth</i>
Journal of Volcanology and Geothermal Research	<i>J. Volcanol. Geotherm. Res.</i>
Nature Geoscience	<i>Nat. Geosci.</i>
Philosophical Transactions of the Royal Society of London, Series A	<i>Phil. Trans. Roy. Soc. London, A</i>
Physics of the Earth and Planetary Interiors	<i>Phys. Earth Planet. Inter.</i>
Pure and Applied Geophysics	<i>Pure Appl. Geophys.</i>
Reviews of Geophysics	<i>Rev. Geophys.</i>

地震研究所彙報 投稿票

20 年 月 日提出

1. 論文の種類 論説 総説

2. 筆頭著者名 (漢字・ローマ字とも記入)
漢 字：
ローマ字：

3. 筆頭著者の所属機関名 (日本語・英語とも記入)
日本語：
英 語：

4. 表題 (和文・英文とも記入)
和文：
英文：

5. 欄外表題 (和文の場合は 35 字以下，英文の場合はスペースを含めて 65 字以下)

6. 別刷希望部数
 50 部 _____ 部 (50 部を超える分は著者負担)

7. 原稿は，以下のすべての項目をチェックしてから提出して下さい。
 電子ファイルに本文と全ての図・表が含まれているか。
 表題は内容をよく反映しており，和文と英文との間に著しい差はないか。
 英文要旨があるか。
 キーワード (5 つ以内 英文) があるか。
 図・表が揃っているか，番号は合っているか，英文の説明文はあるか。
 図は鮮明か。
 文献にもれや，余分なものはないか。

8. その他
・査読終了後，最終原稿を提出していただきます。
・カラー印刷費用は著者負担になります。一箇所にとめた方が概ね低額になります。
 カラー製版を希望する カラー製版を希望しない

9. 当該論文連絡責任者の氏名及び連絡先 (住所と E-mail アドレスは脚注に掲載されますので，省略せず正確に記入して下さい。)
氏名：
住所：
E-mail：
TEL：